研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-142		20-421	独立行政法人国立病院機久里浜医療センター 真栄里仁／松下幸生

題名（原題／訳）

Alcohol Consumption during the COVID-19 Pandemic: A Cross-Sectional Survey of US Adults.

COVID-19 流行下でのアルコール消費量：米国成人における横断研究

執筆者 Grossman ER, Benjamin-Neelon SE, Sonnenschein S.

掲載誌

Int J Environ Res Public Health. 2020 Dec 9;17(24):9189. doi: 10.3390/ijerph17249189.

キーワード	PMID
コロナウィルス、ビンジ飲酒、成人、公衆衛生、疫病	33316978

要　旨

COVID-19 流行中のアルコール消費量の増大については限定的なエビデンスしかない。この研究では、(1) COVID-19 流行中、飲酒行動は変化したか、(2) これらの変化に対して COVID-19 に関連したストレスは、どのような影響を与えたかに関して評価を行った。研究は 2020 年 5 月に米国の 21 歳以上の成人から便宜的に抽出したサンプルを用いてオンラインで横断的調査を行った。COVID-19 のストレスとアルコール消費量に関して、性、人種、民族、年齢、世帯収入で調整し、回帰分析を行った。全回答 832 名の内訳は：女性 84%、白人 85%、26 歳～49 歳 72%。回答者は過去 1 か月間に 12.2 日、26.8 ドリンク飲酒していた。回答者のうち 1/3(34.1%)はビンジ飲酒、7.0%では極端なビンジ飲酒の経験があった。COVID-19 に関連したストレスを経験した者では、そうでない者に対して、より多く飲酒し（β=4.7; 信頼区間(0.2,9.1); p=0.040)、飲酒日数も多かった（β=2.4; 信頼区間(0.6,4.1); p=0.007)。約 60%の回答者が COVID-19 流行以前に比べて飲酒量が増大したと報告しているのに対し減少は 13%に過ぎなかった。飲酒量増大の理由としては、ストレス(45.7%)、アルコールの入手のし易さ(34.4%)、退屈(30.1%)となっている。COVID-19 によってストレスを感じると回答したものは、より多くの日数、より多く飲酒するようになっており、個人としても公衆衛生の点からも懸念される。